

仁和寺の花祭り

仁和寺の境内は、京都の人々が何世紀にもわたって愛でてきた草木が咲き乱れる春になると、最も色鮮やかになります。仁和寺の花祭り（仁和寺御室花まつり）は、甘い香りの大輪の花を特徴とする桜の一種、御室桜の開花を中心に、通常、3月中旬から5月初旬まで開催されます。審美的効果を目的として意図的に樹高を低く保つために硬い土壌の上に植えられた御室桜に数種の品種があります。これらの品種の中で最も一般的なのが、白くふわっとした花をつける御室有明です。

御室桜は、仁和寺が花見の季節に境内を一般公開した江戸時代（1603～1868）からその名を馳せてきており、今日でも毎年春になると多くの人で賑わいます。通常、ツツジが背景にピンクと薄紫の色合いを景観に加え、4月中旬に満開になります。この花祭りの終盤に近づくと、カエデの鮮やかな緑が桜の背景になります。花祭りの期間中は、境内に入るのに500円の入場料が必要となります。